

特別記念講演

日 時：11月22日(日) 11:00~12:00

会 場：メイン会場(鹿児島市民文化ホール 2F 第1ホール)



がん治療の新たな挑戦 “回転ガントリーを用いたフィールドインフィールド法による乳がんと隣がんに対する陽子線治療効果”

一般財団法人 メディポリス医学研究財団

ながた りょういち
永田 良一

プロフィール

昭和33年8月生

出身地：鹿児島県

学歴：聖マリアンナ医科大学（医師）、鹿児島大学大学院医学研究科（医学博士）、高野山大学大学院文学研究科（密教学修士）

職歴：

1991年01月 株式会社 新日本科学（東証一部上場）代表取締役社長
1991年07月 SNBL USA, Ltd.(Washington州) Chairman 兼務
2006年03月 一般財団法人メディポリス医学研究財団 理事長 兼務
2010年04月 駐日ブータン王国名誉領事 兼務
2010年10月 学校法人ヴェリタス学園 理事長 兼務

受賞歴：

1995年 全国労働基準関係団体連合会『ゆとり創造賞』
1997年 国土庁主催 日本経済新聞社『地域活性化貢献企業賞』
1999年 鹿児島商工会議所『産業経済賞大賞』
2003年 南日本新聞社『第54回南日本文化賞 産業部門』
2006年 中華人民共和国広東省高要市『名誉市民称号』

大学・学会活動：

鹿児島大学経営協議会学外有識者委員兼学長選考委員、聖マリアンナ医科大学評議員兼客員教授、高野山大学評議員兼客員教授、東京医科大学客員教授、高知大学医学部臨床教授、中国煙台大学客員教授、米国メリーランド州立大学客員教授、日本予防医学会（常任理事）、日本臨床薬理学会指導医、Faculty of Pharmaceutical Medicine of the Royal Colleges of Physicians of the United Kingdom (Fellow)

著書：

『大切にしたい働くところーその尊きちから』（同文館出版）
『“幸福の国”ブータンに学ぶ 幸せを育む生き方』（同文館出版）
『新・資本主義宣言、7つの未来設計図』（毎日新聞社、共著）

がん治療の新たな挑戦 “回転ガントリーを用いた フィールドインフィールド法による 乳がんと膵がんに対する陽子線治療効果”

一般財団法人 メディポリス医学研究財団

ながた りょういち
永田 良一

がん罹患の増加が社会問題となって久しい。一方、がん治療法は、この30年に目覚ましく発展した。一般にがんの治療は、外科手術、薬物療法、放射線治療の3つと言われるが、最近、外科ではロボット（ダ・ヴィンチなど）、薬剤では抗体医薬（抗PD-L1抗体など）が開発された。放射線治療では、従来はX線による治療が主であったが、15年ほど前から陽子線（プロトン）治療が行われるようになり、現在では固形がんの初期治療では第1選択と考える医師も増えている。ここ10年、陽子線施設の建設ラッシュが著しい。高額な設備投資にもかかわらず、日本では10か所、米国においては15か所が建設されている。

当財団のメディポリス国際陽子線治療センターは、2011年1月から診療を開始した。この4年半で1500名のがん患者さんの治療を行い、良好な結果を得ている。特に、前立腺がんは500例の治療を行ったが、再発例はなく、尿閉や重篤な出血も発生していない。我々は、このような高い精度で安定した治療を行う中で、回転ガントリーを用いたフィールドインフィールド法によるすい臓がんと乳がんの陽子線治療を独自に開発してきた。これまでに治療したすい臓がん（多くはStage III/IVの症例）は130例を超え、抗がん剤と併用した結果、1年生存率は8割にも達し、生存4年超の患者さんもいる。乳がん治療は、今年6月から臨床研究として開始した。乳腺の固定法やがん病巣の位置確認、皮膚照射の制御など、これまでに多くの課題を克服してきた。

患者さんの望む医療と選択される医療は、リスボン宣言において、「患者は、自分自身に関わる自由な決定を行うための自己決定の権利を有し、自分自身の決定を行う上で必要とされる情報を得る権利を有し、他の医師の意見を求める権利を有している」とある。現在、患者さんが陽子線治療を受けるチャンスは、最初の主治医がその適応を説明できるかどうか、そして、患者自身がセカンドオピニオンを受けたいと主治医に申し出る勇気があるかどうか、そういう状況にある。